1.はじめにこの章が、いよいよ最後となります。そこで当初の到達目標に対して、どの程度まで達成できたかを調べて、不足している部分を補う必要があります。本書では１ページに記している水準3を目標にしていましたので、この水準に対する到達度を確認します。人がより多くの成果をあげるには、このように作業を実施した後に、その結果を確認することが不可欠です。すなわち、図13.1に示されるPDCAサイクルに従って活動することになります。図13.1に示されている通り、計画（Plan）を立て、実行（Do）し、点検（Check）と見直し（Act）という活動を繰り返し行うのです。このような活動をする理由は、人間のプロセスに関する知識が不完全なために、最初から完全に達成することが困難であるからです。またこのサイクルは、管理のサイクルとも呼ばれています。この活動をもう少し丁寧に述べれば、具体的な目標を立てておき、計画どおりに遂行してその到達度を点検し、見直しを行うということになります。何事も点検と見直しをすることで、格段に成果があがるものです。今回の演習でも、単に12章分の演習を遂行したというだけではなく、その到達度を確認して、必要に応じて見直しが求められます。そこで、次の観点から各自で到達度を検証してみましょう。①本書で得たはずの知識の確認②タイピング能力の成長さらに、本書では取り扱わなかった重要なテーマや今後の課題については、最後に記述しておきます。2.各水準と演習家庭の整理本書での演習の目標は、第１章で示した５つの水準のうち水準３までを達成することでした。この段階までの水準の概念は、図13.2に示されています。図からわかるように、基本は水準１のストレスなくタイプできるようになることです。タイプがある程度できるようになれば、レポートや論文の作成に不可欠な部分を作成する能力、